

平成30年度 第1回 教育課程編成委員会議事録

日 時 平成30年5月24日（木） 14:30～15:50

場 所 学校法人 北海道学院 釧路専門学校 3階 第7講義室

出席委員 小野 信一 （北海道社会福祉協議会 釧路地区事務所 所長）
洒井 恵 （釧路市私立保育園連合会 会長・釧路あさひ認定こども園 園長）
工藤 映美 （釧路市私立幼稚園連合会 理事・認定こども園よしの 副園長）

出席職員 種市 司 （釧路専門学校 校長）
阿部 みつゑ （釧路専門学校 副校長）
氏原 陽子 （釧路専門学校 こども環境科学科長）
渡邊 千華子 （釧路専門学校 介護環境科学科長）
田仲 京子 （釧路専門学校 こども環境科教員）
杉村 典史 （釧路専門学校 教務主任）
若生 みゆき （釧路専門学校 事務主任）

欠席者 諫山 邦子 （北海道教育大学釧路校 教育学部 准教授）
伊東 義光 （日本介護福祉士会北海道支部根釧地区支部 支部長
道東勤医協 ヘルパーステーションすこやか 所長）

配付資料 ①委員名簿・次第
②資料1（経過報告等）
③平成29年度 第2回 教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会議事録
④平成30年度 学校運営方針
⑤専門学校部局方針
⑥平成30年度 こども環境科 教育課程案
⑦平成30年度 介護環境科 資料（国家試験について・授業内容・教育課程）
⑧釧路専門学校における修学援助等の現状

開会宣言（杉村）

- 次第 1 挨拶（種市）
2 委員・職員紹介
3 平成29年度 第2回 教育課程編成委員会議事録の確認（杉村） 資料③参照
4 経過報告について（種市） 資料②参照
5 今年度の教育課程について
(1) 報告
①運営方針（種市）資料④⑤参照
②こども環境科（氏原）資料⑥参照
③介護環境科（渡邊）資料⑦参照

(2) 報告に対する質疑応答

工藤委員から質問

各種ボランティアは以前からずっとあったのか？また、保育所等の夏祭りにもボランティア参加しているようだが、幼稚園からの要望はあるのか？

学校側回答（氏原）

学生が自発的に掲示板を見て参加している。保育所や系列幼稚園から要望がある。

（渡邊）

参加率は高く、断るケースはあまりない。

小野委員から質問

国家試験不合格者の現状は？また、平成25年度入学生が多い理由は？

学校側回答（渡邊）

地元施設で就職し、5年間の経過措置により、正式な介護福祉士を目指している。

平成25年度入学生については、経過措置の最終年度であったことも大きい。結局は、経過措置は延期になったが、高校側には浸透していなかったと思われる。また、その年度は高校生数が多かったのではないか。

小野委員から意見

不合格者へのアフターケアを要望したい。学校が精神的支柱になると思う。高等技専からの委託生募集について、職業紹介所へのアピールが必要ではないか。連携等は行っているのか？

学校側回答（種市）

全国的に募集定員がなかなか埋まっていない様子。

酒井委員から意見

保育現場に携わる人員は年々減少傾向にあり、現場でも感じる。メディアで処遇の悪さが報道されすぎているように思う。また、高校教諭があまり勧めない傾向もあるのではないか。私保連として素晴らしい職業という事を知ってもらいたい。高校生にも目を向けて発信していきたい。養成校入学へ繋がるように協力できることがあればと思う。

学校側回答（杉村）

生徒は保育職に就きたいが、保護者が反対するケースもある様子。

（氏原）

地域連携の一環で、各高校等へ行き出前授業を行っている。職業訓練の講話依頼もあり、そこで保育の魅力伝えることができる。

工藤委員より意見

小中高職場体験を受け入れている。その時は楽しかったと帰るが、実習に来ると「大変だ」に変わってしまう。教育できる人材（職員）を育てていかなければいけないのが現実。長く勤めて欲しい。

小野委員より意見

どのように高校教諭の認識を高めてもらえるかが課題。小・中学校教員になるには、「介護体験」が必修となっているが、実習時に初めて高齢者と関わる人もいる。教諭になっていく人達と直接関われる機会を利用できないかと思う。各地社協で受け入れており、教育現場へのアピールも力を入れていきたい思いがある。

閉会の挨拶（阿部）

以上
(記録：若生)